

# 育てよう 一人ひとりの人権意識

8月は「人権啓発推進市民運動強調月間」です



## 人権推進総合計画策定へ

人権とは、誰もが生まれながらに持っている権利で、人間らしく生きていくための、誰からも侵されることのない基本的な権利です。しかし、自分の人権を主張するだけでは、他の人の人権を侵害する場合もあります。一人ひとりがお互いの違いを認め、他の人の人権を守ることが、自分の人権を守ることにつながるのです。

市では本年度、人権推進総合計画を策定し、この計画を基本として、人権行政を進めます。

## 互いの人権を尊重しあう 明るい社会をめざして

「人権啓発推進市民会議」は、市民の代表など33人で構成され、複雑多様化する人権問題の早期解決に向け、人権意識の普及と理解を深める啓発活動を進めています。また、暮らしの中で起こる人権問題については、人権擁護委員が相談に応じています。

市では、人権講演会や街頭啓発、地域ぐるみ人権学習会、学校現場

での人権講話や人権の花運動などの啓発活動を行っています。

## 「セクハラ」・「パワハラ」は 断固排除！

平成19年4月に施行された改正「男女雇用機会均等法」では、事業主に對して、セクシュアルハラスメント対策を義務付けています。

男性が女性を対等なパートナーとして認めず、性的な関心・欲求の対象とみなして、女性の意に反する言動をすると、いわゆるセクハラとなります。セクハラは、働く女性の職業能力の発揮を妨げ、職場環境を著しく悪化させるなど、企業の生産性や社会的評価にも影響する重大な問題です。

さらに、男性が女性に対して行うものだけでなく、男性に対するセクハラも禁止の対象となっています。また、上司が地位や職権を利用して嫌がらせをする「パワハラ」・「ハラスメント」といった行為も表面化してきています。

この機会に、身近な人権について、考えてみませんか？

人権女性課  
人権推進係  
☎(63)83351

## 人権啓発パネル展

市役所 1階ロビー

8月25日(月)～29日(金)

市民情報センター 1階ロビー

9月1日(月)～5日(金)

男女雇用機会均等法の相談は  
雇用均等室へ

栃木労働局雇用均等室

☎(028)272015

○セクシュアルハラスメントを受けたと相談があったが、どう取扱うのかわからない  
○妊娠を会社に報告したら、退職するよう勧められた

職場での男女均等取扱い、セクシュアルハラスメントに関する問い合わせ、相談を受

# 平成19年度 栃木県教育委員会 人権に関する作文 入選作品紹介



## 私の家族

県立鹿沼高等学校1年

上村 美由規

「あなたと似た。」  
と家族に聞かれたことがありますか。

私の祖父は、認知症と診断されました。みなさんは、認知症という病気を知っていますか。簡単に言うと、認知症とは、記憶が混乱してしまい、それがいつのことなのか分からなくなってしまう病気です。昔の記憶がよみ返り、さっきあったことのように思ってしまうのです。この病気を治るといふことはなく、進行するスピードをゆっくりにさせていくしか方法は無いそうです。そのためには薬

に頼り、症状を抑えることを優先するしかありません。祖父がたぐさんの薬を食後に飲んでる姿を見るたびに、私は胸をしめつけられます。

私が小さいころからずっと見ていたのは、いつも一生懸命働く祖父の姿でした。祖父は長年、民生委員として活動してきました。地域の人のために、色々なことをしてきました。

祖母はその姿を見て、「いつでも一生懸命働いてくれて、家族みんなを助けてくれたんだよ。」と、私に話してくれます。私の見てきた姿と同じ姿でした。私だけがなく、家族みんなが同じように祖父の頑張っている姿を見てきたのです。

祖父はいつも私を助けてくれます。元気だったころはもちろん、今でも私に優しくしてくれます。母とけんかしたとき、姉とけんかしたとき、祖父の部屋にかけ込んだのを覚えていてます。しかし、いつのまにか私のことを忘れていました。初めのころは、症状も軽く、時々様子が分からなくなる程度でした。認知症は、時間とともに病状が重くなる病気です。夕食のとき、同じことを何度も繰り返し、尋ねてきます。最初は一つ一つ丁寧に返事をしてきました。しかし、何度も聞かれることが嫌になり、その場から離れてしまったこともありました。祖父は時々、自分の名前も忘れます。祖母のことも私のごとも忘れれます。名前を初めて忘

れられたとき、部屋で泣いたのを覚えていてます。そのときの気持ちは、言葉にできないくらいいつらく、悲しいものでした。

ある日、私は腹痛で学校を早退することになりました。「今、家族の人が迎えに来てくれるからね。」

という先生の言葉に安心しました。少したって、保健室に迎えに来てくれたのは祖父だったので。私は驚きました。まさか、祖父が迎えに来てくれるなんて、信じられませんでした。早退の連絡を受けたのは、祖父だったので。本当に、よく一人でここまで来られたなと思います。確かに民生委員として活動していたとき、会議のために、中学校に何度か来ていたので、道順は記憶にあったのかも知れません。道に迷わず迎えに来てくれたのです。私は嬉しさと同時に複雑な気持ちになりました。

祖父は歩いてきたので、早退する私はカバンを背負い、荷物を持ち帰ることになりました。祖父と肩を並べて歩きながら、自分の体調のことより、祖父の歩く速さに合わせながら、家に帰りました。私にとって通い慣れた道だったけれど、祖父が道を間違えず来てくれたこと、私を迎えに来るために歩いてきてくれたことなど、家に着くと改めてなぜなのだろうと思いはじめました。それは、具合が悪いという知

らせを聞いて、「はやく迎えに行つてあげなくては……。」という私を思う祖父の優しい気持ちが行動に表れたのだと思いました。

このことをきつかけに、私の気持ちも変わっていききました。病気なのだからと分かっているても、何度も繰り返し聞かれ、しつこくされるのが嫌で、その場から離れようとしていた自分が恥ずかしくなりました。

そんな祖父の介護を祖母はずっとしています。祖母は私たちにいつもこう言います。「いいちゃんが、いろんなことを何度も聞いてごめんね。いつも我慢をしてくれてありがとうね。」

一番つらいはずの祖母が気をつけて言ってくれるのです。祖父も祖母もとても優しい人なのです。

祖父の病気を、毎日少しずつ進行しています。私にとって、祖父は大切な存在です。それでも時々、何度も尋ねられて、強い口調で答えてしまつこともあります。後悔するのはわかっているのに言ってしまうのです。これからは、自分の気持ちのバランスを上手にとりながら、祖父と向き合っていこうと思います。

そして、祖父の介護を一生懸命している祖母も大切にしたいです。家族みんなで支え合つことが、とても大切であり、必要なのだと実感する毎日です。